読書メモ２０１７年１１月号

山田剛史/林創 共著
『大学生のためのリサーチリテラシー入門
-研究のための８つの力-』（ミネルヴァ書房）
ほか

柳沢克央（やなぎさわかつひろ）　編

（信州・上田仮説サークル）

2017 年 11 月 18 日（土），11 月例会用レポート

◇はじめに

先月はタイトルの本が紹介できなかったので今月はトップで紹介します。良い本です。「もう一度大学生に戻りたい」と思ってしまうほど，素晴らしいです。

＊

先月号までの「読書メモ」と同様，サークルで発表することを目的とすると，読書がはかどるので，今回もこのメモを作成しました。自身のため，記録を残すことが第一目的です。みなさま，よろしく（適当に）おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり，引用あり，要約あり，感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。（私物）と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

私物の「積ん読」本が増え「読書予定リスト」は以前にも増して充実しています。まだまだたくさん「課題図書」があります。読書の秋です。スムースに流れるように「消化吸収」を進めていく予定です。

◇読書記録または読書メモ（順不同）

◎山田剛史（やまだつよし）・林 創（はやしはじむ）著『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（ミネルヴァ書房・2011 年初版・2016 年 9 刷）（私物）

10 月号で「大学進学者の多い全ての高校に備えるべき，基本的で，きわめて読みやすく，とても素晴らしい本。詳しくは 11 月号で」と紹介した。これは現在の学士養成の

ための必読文献である。しかも，ネット環境の下で学ぶという経験が学生の時代にはなかった社会人は，事実上，現在の学生と横一線なのであるから，この本はそのまま，勉強法のテキストとなる。索引が付いている点も非常に好感度が増す。風雪の変化にもある程度耐えることであろう。本書カバー裏にある宣伝文をそのまま引用する。

…これから本格的に研究を意識し始める学生（学部 2～3 年生や修士 1 年生）を主たる対象とした，リサーチリテラシー（研究を遂行するために必要な能力）についての入門書。これを読めば「聞く力」「課題発見力」「情報収集力」「情報整理力」「読む力（読解力）」「書く力（執筆力）」「データ分析力」「プレゼンテーション力」の 8 つの力が身につきます。（宣伝コピー以上）

とても素晴らしかったので，司書の先生にお願いして篠ノ井高校図書室にも入れてもらった。やる気のある高校生だったら，十分に読みこなし，使いこなせると思う。早ければ早いほど，良い。でも，私のような社会人にとっても新鮮で，役に立つ。文章にも内容にも普遍性があって，クセがない。それがまた，素晴らしい。しかし，同時に本書では，普遍的であることを狙っていないフシがある。このことについて，次に引用する。

○…読者には，本書で紹介する内容を 1 つのモデルケースととらえ，読者それぞれのケースに置き換えて，本書の内容を活用してもらえたらと思います。つまり，本書の内容をそのままなぞるのではなく，読んだあとにじっくりと考えてもらいたいのです。まずは，本書の内容をうのみにせず，じっくり考えてみる，その上で自分に合うと思うものはとれ入れればいいし，合わないと思うものは無理にその通りにする必要はありません。人それぞれ違うのだから，万人に合う方法は存在しません。本書は筆者らがよいと思う方法を紹介しているのであって，これが最大公約数的なものだったり，普遍的なものであったりするとは筆者ら自身も思っていません。…（「はじめに」ｖページより）

ところがどっこい，私が読んだ印象では本書はとても普遍的なのだ。いったい，どういうことなのか。逆説的だが，著者は自分の立ち位置を限定することによって，また，自分のやり方を紹介する方法で無用と思われる安易な妥協（あいまいさ，いい加減さ）を避けることによって，かえって普遍性を得ることに成功しているという印象を得た。とにかく，素晴らしい本であると思った。決して盲従するつもりはない。

◎小室直樹著『日本いまだ近代国家に非ず』（ビジネス社・2010 年）（私物）

（本書の冒頭に掲げてあることば）

現実は，時間を掛けて　やがて，「私に追い付いてくる」であろう。

そして，編集者によるこのことばへの補足。「小室直樹先生は『ソビエト帝国の崩壊』をその十年前に正確に予告されていたように，ご自身の学問の成果をこのようにいわれていたそうです。」とある。

○本書に挟まっていた「宣伝カード」の文言をそのまま引用する。

…小室学の金字塔！　ここに極まる！！　『日本いまだ近代国家に非ず』―国民のための法と政治と民主主義―「特捜検察や尖閣問題のデタラメは，なぜ生じるのか？　制度だけ輸入し，近代のエートスを知らないからだ。民主主義への無理解が日本を滅ぼすことを完全論証！」（宮台真司氏）（社会学者）

○「まえがき」（柳沢注…所論を歴史に刻むという決意がにじみ出てくるような気迫を感ずる名文だと思う）

棺を蓋（おお）いて事定まる（『晋書劉毅（しんしょりゅうき）伝』という。

だが，田中角栄は棺を蓋って猶，事は定まっていない。未だ激しい毀誉褒貶の中にある。汗牛充棟の角栄論は，読者諸賢が既にご存知の通りだが，最重要な論点にはまだ触れられていないのだ。

未だに気付かれていないとまで言った方がいいだろう。

それは，田中角栄こそが，唯一人の立憲政治家，唯一人のデモクラシー政治家であった，このことである。

立憲政治，進んでデモクラシーの眼目は議会を有効に機能せしむることにある。

然らば，議会の最大の機能とは何か。

自由な議論を通じて国策を決定することである。

国権の最高機関として立法を行うことである。

角栄は，これを見事に実行した。そして角栄亡き今，一人としてこの道を辿る者なし。

では今，国権を行う者は誰か。役人である。役人が法律を作り，解釈し，施行（しこう）する。日本の国家権力は，立法，司法，行政の三権の悉く役人に簒奪されてしまった。デモクラシー死して，「役人クラシー」となったのである。

彼らの視野にあるのは，法律と前例と，自らの権限と昇進のみ。

自由な意志，自由な言論とは無縁の衆生（しゅじょう）である。

「最良の官僚は，最悪の政治家である」―役人は運命の頤使（いし）（命令）に甘んずるだけである。が，運命を駆使するところに政治家の本領がある（マキャヴェッリ）。

役人が行う政治ほど，危険な政治はない。戦前，戦中の軍人官僚の政治を見よ。

斯かると時に，ああ，この内患外憂―。

もしもデモクラシーを信奉するならば，今こそ角栄が鑽仰（さんぎょう）される。欣求（ごんぐ）される。

『田中角栄の遺言』（本書の初出時の書名）とは，仏教における法華経，キリスト教におけるパウロの伝道の意味である。

法華経の成立は釈迦入滅後千年後のこと。仏教の経典には「如是我聞」と書かれている。しかし，釈迦の説法を聞いた人が千年以上も生きているはずはない。

それでも猶，天台智顗（ちぎ）（538～597）は，法華経にこそ釈迦の真意があると断ずる。

またパウロは，イエス・キリストの命令によって伝道すると言ったが，彼はキリストの死後の弟子である。

何故，キリストの命令を聞くことができたのか。それを可能にしたのは宗教の論理，或いは霊感であった。

著者は，田中角栄の言行と彼の生きた政治という世界の論理によって，その真意を聞く。角栄の真骨頂此処にありと。

敢えて本書を『田中角栄の遺言』と名付けた所以である。

執筆に当たっては，筑波大学の加藤栄一教授，石島泰（ゆたか）弁護士，政治評論家・早坂茂三氏，上智大学教授・渡部昇一氏の著作，雑誌論文を参考とした。引用に際してはその都度明記したが，ここに深甚なる謝意を表したい。

平成六年四月

小室直樹

私は本書を 10 月 29 日（日）のお昼前後の 3 時間ほどで一気に読んだ。ただひたすらに面白かった。以下，いつものようにこれは重要だと思った箇所を引用して紹介する。

〇まず第一に，これ（デモクラシー）は人間の自然状態ではなく，滅多にないものだということである。

デモクラシーは三千年に一度咲くという「優曇華の花」のように珍しい。

今，曲がりなりにもデモクラシーらしき政治が行われている国は，アメリカ合衆国とカナダ，それから西ヨーロッパ諸国，北ヨーロッパ諸国などと，日本。それ以外にはアフリカにアメリカを手本にして作った黒人国が二つか三つある程度だ。

それ以外の世界の殆どの国は，独裁か，それに近い国である。（14 ペ）

〇役人が政治を操るということの恐ろしさ。このことは，冒頭でも述べたように，軍人官僚が日本を誤らせたことによっても推察されると思うが，最も決定的で重要な…は何か。役人は，与えられた状況の下において，与えられた法の下においてしか行動ができないことである。換言すれば，与えられた運命に完全服従するという，どうしようもない性質を持っている。

ところが，政治家として一番大事なものは，運命を如何に駆使するのかということ。

予想することの出来ない激変に，如何に対処するかである。（27 ペ）

〇<u>マキャヴェッリは，政治家の徳（ヴィルトゥ）は生命力の発揮であると言った</u>。

えらい苦労をして多くの死線を越えてきた政治家は,生命力発揮の徳を得るであろう。斯かる政治家は国民を幸福にする能力を有する。そのために何が必要かということが分かっている。（69 ペ）

〇実際に，日本に最終的に戦争（先の戦争）決意をさせたのは禁輸ではなかったか。石油が入らなくなれば日本は戦争をする。戦争をせざるを得ない。（76 ペ）

○今日の日本の現状はどうか。最高裁が判断を下す以前に，ロッキード事件被告人・田中角栄有罪の空気が議会内にまでも蔓延し，これに異を唱えるものは共犯者扱いを受けかねず，政治家は，誰もが“触らぬ神に祟りなし”とばかりに，今も沈黙を守り続ける。（84 ペ）（2017 年現在の韓国の政治状況もこれに似ていると考えることは妥当性があるだろうか…柳沢）

○恐竜，田中角栄。その前にも，色々な時代があったのだが，角栄が恐竜たる所以は，役人を自由自在に駆使したところにある。此処にこそ，角栄政治の秘訣がある。（93 ペ）

○討論こそ議会政治のエッセンス。角栄はこの神髄を理解し，体得し，実践した。
　しかし，角栄以外の政治家は，そうではなかった。
　討論は，間もなく，日本の議会から蒸発し，育てられることなく，有名無実なものと成り果てたのであった。…（中略）…吾人は既に，此処に議会政治，デモクラシーの終焉を見る。…（中略）…日本の議会は，自由討議とは無縁の衆生となった。
　官僚が書いた原稿の棒読みの光景ばかりが，あまりにも屡々（しばしば）テレビなどで見せつけられ，周知なこととなったものだから，国民もいつしか呆れ果てるのも忘れ，政治家は役人の木偶（でく）だと諦めてしまった。（98 ペ）

○（ディズレーリにより）立憲政治の基礎とも言うべき前例が，ここで確立されたのである。
　まず第一番目に，選挙公約は飽くまでも守らなくてはならない。守れないなら下野すべし。このことに関しては，日本は，まだまだいい加減である。
　第二番目に，対立政党の政策を勝手に盗んではいけない。
　第三番目に，君主の信認があるという理由だけでは，政治権力をもっていてはいけない，ということである。
　そうして，一番大事なことは，議会における論争によって国策や政権党が決まること。
　こうした立憲政治の前例が，ディズレーリによって確立された。（103 ペ）

○政治における最高道徳とは，畢竟，「国民の経済生活を保障することである」これに尽きる。
これはマキャヴェッリや韓非子の説であるだけでなく孔子や孟子の説でもある。（108 ペ）

○先見性こそ，大政治家の資格である。半世紀も前に一年生議員が「自由討議」で主張した政策が，今でも根本政策として生きている。（111 ペ）

○角栄こそ，実に共産党の根本政策の実現者ではないか。
　角栄は，日本を世界一の平等者会にした。
　生活水準と生産力とにおいて最先進資本主義国に追いつき追い越した。
　田中角栄の明察，実行力知るべきのみ。（116 ペ）

〇英国の大宰相マーガレット・サッチャーは,「民主主義の眼目は，率直で力を込めた討論である」と再三力説する。「信ずるところをキチンと主張し，理由を説明すれば，人は必ずついてくる」と（『サッチャー回顧録』石塚雅彦訳，日本経済新聞社）

〇日本のデモクラシーは，そうはさせじとの角栄の努力も虚しく，昭和三十年，その本質において夭折したのであった。（118 ペ）

〇何故角栄一人が法律を自由自在に作り得たのか。官僚，つまり役人を自由自在に使えたからである。役人を自由自在に使えれば，法律も自由自在に作れる。
　角栄は「役人は生きたコンピュータだ」と言った。（122 ペ）

〇初めに法律ありき。
　如何に有能な役人と雖も，法律の上で踊るしか能がない。
　霞ヶ関の役人が思うように動かないと嘆く政治家が居るが，バカも休み休み言えということだ。
　そもそも役人は政治家の言うとおり動くものではなくて，法律の示すところによって動くのだ。法律こそは役人の命，拠って立つ基盤だ。（123 ペ）

〇角栄は役人の人事を尊重した。竹下登以下の後輩の政治家に繰り返し言った。
「役人の入賞年次をしっかり覚えよ。十年後の役所の人事構成がどうなっているか，それを予測できなければならない」
　日本の官僚組織は，事務次官を頂点にしたピラミッドである。
　その構成原理はたった一つ。入省年次だ。これを無視した人事は行われない。
　だから，もし，権限を持っているからと言って役人の人事に口出しをするような政治家が現れた場合には，一致団結して反抗する。（128 ペ）

〇役人の薄給は，世間の人たちの給料が下がることによって，相対的に上昇したことになる。心の底で，役人たちは景気の良くなることを望んではいないのである。（132 ペ）

〇官僚というのは，いわば癌細胞です。癌を治すのがむずかしいのは，癌を起こす特殊な遺伝子が人間の細胞を繁栄させるためになくてはならない遺伝子でもあるからです。ですから，これを取り去ることはできないのだけれども，かといって勝手な行動をとった挙げ句に，癌細胞を誘発されても困ります。…（中略）…まったくやっかいな存在なのです。（加藤氏の雑誌論文より）（134 ペ）

〇役人は，権力争うためならば
　夜昼かまわず，手段選ばず

　そのような，天谷直弘さんの歌がありますが，規制を全廃し，官僚から権限を取り上げようとすれば，官僚は必死になって抵抗するに決まっています。官僚自身に権限を放棄せよといいうのは無理な話です。（これも加藤氏の雑誌論文より）（134 ペ）

〇新たな法律が出来ることは，役人にとっては権限の拡大を意味する。（134 ペ）

〇角栄は初めて大蔵大臣になったとき，役人たちを講堂に集めて，次のような第一声をあげた。
「私が田中角栄だ。小学校高等科卒業である。諸君は日本中の秀才代表であり，財政金融の専門家ぞろいだ。私は素人だが，トゲの多い門松をたくさんくぐってきて，いささか仕事のコツを知っている。……一緒に仕事をするには互いによく知り合うことが大切だ。われと思わん者は誰でも遠慮なく大臣室に来てほしい。何でも言ってくれ。上司の許可を得る必要はない。……できることはやる。できないことはやらない。しかし，すべての責任はこの田中角栄が負う。以上」（『政治家　田中角栄』より）（137 ペ）

〇（日米繊維交渉について）この時，田中の秘書官として日米繊維交渉の一部始終を見てきた通産省の小長啓一は，後に当時を振り返って，次のように記している。
「私自身は，この交渉で政治家と行政官の間には，はっきりとした役割分担があることを身をもって感じた。そして，泥をかぶってもやるべきことはやりぬく政治家の迫力に感銘したのである」（『日本の設計』ネスコ刊）（139 ペ）

〇役人の世界は，減点主義である。失敗をした者はどんどん点数を引かれていって，持ち点がたくさん残っている者ほど出世するという仕組みになっている。…（中略）…しかし，政治家は加点主義だ。泥を被ってマイナスの評価を受けても，それ以上の業績を上げて得点を増やせば良いのである。役人上がりの宮沢，福田，そして佐藤には「火中の栗を拾う」ことが出来なかったが，角栄にはそれが出来た。だから役人たる小長は角栄を尊敬したのである。戦争で失った領土は，戦争で取り戻すというのが世界史の常識である。平和裏に領土（沖縄）を回復するとは，歴史的功績だ（142 ペ）

〇政治家･田中角栄の最大の業績が日中国交回復にあることは誰もが認めるところだが，官僚操縦術という観点からこれを見ても，真に見事だった。（143 ペ）

〇意志決定と責任は政治家，細かな知識と実務は役人，という役割分担を立ち所に実行したのだった。（145 ペ）

〇…角栄が話の枕をそこまで振ると，周恩来が口を開いた。
「あなたは，一体，何が言いたいんだ？」
　角栄は待ってましたとばかり答える。

「お客に来てお供を非難されれば，おやじにも帰れということだ」
「そういう目に遭ったのか？」
「そうだ」
「そういう事実は全くない」
　周恩来は言下にそう否定したと角栄は語っている。小説にでもなりそうな大将同士の遣り取りだが，ここで私が言いたいのは，官僚たる条約局長に向かって放たれた矢を，角栄自身が見事に払って見せたことだ。自分の指示で動いている官僚の言動は，全て自分が責任を取る。そういう姿勢を示されたら，官僚はシビれる。
　この人のためなら，身を粉にして働いても良いと思うのではないか。
　一事が万事。翌日直ぐに，周恩来を相手にそれができたのが角栄である。（149 ペ）

〇角栄の言動に沿って日本官僚の仕組み，そこから生じる官僚のメンタリティーについて述べてきたが，ここで官僚の特性を，もう一度整理しておこう。
　①既存の法律の上で動く。新たな意志決定は出来ない。
　②減点主義だから，責任は取りたくない。
　③入省年次が序列。人事に口出しは無用。
　④薄給なので，天下りしなければ割に合わない（給与の後払いと思っている）。
　⑤権限拡大のためなら一所懸命。
　これらの特性を熟知した角栄は，余人の及ばぬ発想で新たな決断をし，「責任は自分が負う」と宣言した。そして役人の人事には手を触れず，盆暮れには実利を与え，法律を作成する場を提供した。その結果，角栄は一言で官僚を動かし，官僚は角栄を自らの司令塔として仰いだ。（151 ペ）

〇何故に，「日本資本主義の精神」は健全に発育できないのか。その理由は，日本がまだ鎖国しているからである。日本は 1854 年，鎖国を解いて開国したことになってはいる。ところがどういたしまして。日本は，依然として鎖国を続けているのである。人々の行動様式（エトス）において。社会の組織形態において。
　そして，日本国民は，真の資本主義に目覚めぬまま天下泰平の惰眠を貪っている（157 ペ）

〇有能な金権政治家の条件は，カネを欲しがっている人に出してやり，出しても喜ばない人とか出しても役に立たない場合には出さないことである。（165 ペ）

〇かつて宮沢喜一は，角栄の金権体質を「100 円のものを 200 円にしたのではなくて 1000 円にしてしまった」と評したが，そうではない。1000 円が必要な時に 1000 円出し，100 円でいいところは 100 円に，ゼロで済むところはゼロにしたのである。（166 ペ）

○日本的人間関係の基礎には，自然法主義が横たわっている。当該の人が「良い人間」であることが証明されれば，この人の言動は全て正しい。
　しかも，良い人間であるということの証明は，確固たるドグマを中心とする客観的規範によるものではない。主観的な感情論理によってなされる。
　この感情論理による証明の一つとして「物くるる人は良い人だ」という賄賂の論理があるわけである。兼好法師も言うが如くに。（167 ペ）

○日本における賄賂は人間関係形成のための触媒である。（170 ペ）

○忠誠を購うためのカネはどうする。カネの集め方は，意次のそれと同型（アイソモーフィック）である。
　即ち利権の付与である。特権的離見を付与された業者は角栄にカネを貢ぐ。
　権力が利権を与え，利権がカネを生む。
「角栄モデル」における権力と利権との構図は，「意次モデル」のそれと同型である。
　角栄モデルにおけるカネの贈与は，忠誠の調達である。（171 ペ）（2017 年現在，森友・加計問題が煮詰まらない原因はこの考え方にあるのではないか）

○贈収賄は悪いに決まっている。しかし，それは畢竟，市民道徳に過ぎない。政治指導者（君主）の道徳は，これとは違う。
　それは徳（生命力の発揮。英語の virtue）によって国民の経済生活を確保することに尽きる。政治道徳を行うためならば市民道徳を蹂躙しても良い。
　もちろん，政治家と雖も，その他の場合には，市民道徳を守らなければならない。「市民道徳を蹂躙しても良い」と言っても，厳重な条件が付されていることに注意されたい。（173 ペ）（これも 2017 年現在，不倫を初めとする政治家の私的諸問題が厳しく断罪されていることも，これに見事に当てはまるのではないか）

○英国が国として一番発達したのは，政治がほどほどに汚れていた時だ。
　英国の近代議会政治が完成され，内閣責任制度がほぼ完成された時期の最初の「総理大臣」がウォルポール（在位 1721～1742）だ。彼の時代に内においては英国憲法が完成され，外においてはフランスとの第二次百年戦争に圧勝。英国はワールド・エンパイヤーに成った。ところが，そのウォルポールの時代というのは，腐敗でも又，有名な時期なのである。（178 ペ）

○ウォルポールは，ジェームズ一世の言った言葉を座右の銘にしていた。
「政治のセンスというのは誰かの顔を見た時に，この顔はいくらで買えるということの判断ができることである」
　角栄だって，そこまでは言っていない。（179 ペ）

○日本では，公然とマキャヴェリズムを宣言する政治家はいない。
「ここには，真理と正義に飽くまで忠実な理想主義政治家が乏しいと同時に，チェザーレ・ボルジャの不敵さもまた見られない」（丸山眞男『増補版　現代政治の思想と行動』未來社）
　丸山教授が「権力の矮小化」と呼ぶこの現象は，日本人における政治理解の基調を成している。即ち，「政治は本質的に非道徳的なブルータルな（残酷な）ものだという…つきつめた認識は日本人には出来ない」（同上）のである。（柳沢注…「排除いたします」は日本人にはきつ過ぎる。「小池百合子は日本人離れしている」という俗言は本当にそうだったのだ！）政治改革にしろ何にしろ，日本における政治問題は，全て，権力の矮小化からスタートする。
　マキャヴェッリ（1469～1527）の研究こそ，政治危機に揺すぶられる現代日本にとって焦眉の急であると思われる。（190 ペ）

○ベーコン，ハリントン，スピノザ，ルソー，フィヒテ，ヘーゲルは，マキャヴェッリを高く評価している。（『政治学史』福田歓一著　東京大学出版会）。（191 ペ）

○マキャヴェッリにおける中心的分析概念は，ヴィルトゥ（virtue）。これは，英語で言うヴァーチューであるが，倫理上の美徳という意味ではない（そう狭く限定されない）。（197 ペ）

○古代中国では，天子が良い政治を行えば，経済も文化も良くなり，社会全体が良くなる。自然も超自然も良くなって人民は全て幸せになる。
　いわば汎政治主義である。政治良ければ全て良し。（221 ペ）

○ヒトラーの言う通り，「権力によって弾圧されて消えた思想に，大した思想があった例しはない」と。
　正統的儒教は，秦の始皇帝の焚書坑儒にも拘わらず，生き残り復活して来たではないか。それにしても，讖緯説（しんいせつ）の光を当てることによって儒教の本質が明らかにされた功績は，埋没されるべきではあるまい。（225 ペ）

○政治家の徳の中で，とりわけ重要な徳は，官僚を駆使する能力である。（226 ペ）

○官僚，特に良い官僚は，状況は所与のもの，固定して動かないものであると思い込む（意識においても無意識においても）ようになる。このように条件反射するようになる。これ以外には条件反射出来ないようになってしまう。（227 ペ）（東芝，神戸製鋼，日産，スバルなどの大企業特有の症状もこれに似ているのではないか…柳沢）

○デモクラシーの反対は何か。

多くの日本人は，この質問に「独裁主義」なんて答える。とんでもない。民主主義独裁ということだってある。…（中略）…

語源的にデモクラシーの反対は何かというと，シオクラシーである。神聖政治である。…（中略）…古代ユダヤにおいては，根本的にシオクラシーであるのに，それをきちんと守らなくなったから上手くいかなくなったというのが，旧約聖書のテーマになっている。（233 ペ）

〇…こうしたマイナス・シンボルであったデモクラシーがプラス・シンボルに変わったのは，ずっと後のことである。

1918 年，アメリカの大統領・ウィルソンが第一次世界大戦でドイツに宣戦布告した時に使った「世界をデモクラシーによって，住み易い場所にするために」という言葉からである。（238 ペ）

〇アン女王が 1707 年に拒否権を発動したのが最後で，以後，発動されなかったのだが，それがたまたま拒否権を発動しないのか，拒否権がなくなったのか，イギリスは慣習法だから，それを見極めるのは難しい。

それが殆ど確定的になったのは，ジョージ一世（在位 1714～1727）のころである。何故，確定的になったかと言うと，ジョージ一世の時から，王様が閣議に出席しなくなった。…（中略）…即ちジョージ一世，初代の総理大臣ウォルポールの時代に，国王は閣議に出席しなくなり，完全に国王の権力は有名無実になった。これによって十八世紀の半ば頃までにはイギリスの自由主義，リベラリズムは完成をみたのである。（248 ペ）

〇つまり，自由主義，民主主義，その二つが結合したところの近代デモクラシーは，滅多に出現しない，極めて貴重な制度なのだ

それが何よりの拠には，アジア，アフリカでいろいろな国が独立してどうなったかだ。

皆，憲法を元の宗主国を手本にして作る。その条文には，立派な自由主義や民主主義が盛り込まれている。にも拘わらず，どこの国でも，あっという間に機能しなくなって，独裁制ができてしまった。

だから，もしもデモクラシー，リベラリズムによって政治を行うのであれば，それを生かす，成り立たせるための条件について真剣に考えなければ意味がない。（柳沢注：現代日本はまさにこのことを国民総ぐるみで考えなければならない局面にあるのだ。改憲論議以前の，はるかに基本的な問題だ。論理的な解決はなかなか難しいだろうと思われるが，何とかして「優曇華の花」を守らなければならない）

〇近代国家の権力は，余りにも強大である。人民に何をするか分かったものではない。そこで，人民の権利を強大な国家権力から守るために，これを，立法，行政，司法の三権に分け，互いに牽制させて，バランスを取らせる。これ，所謂「三権のチェック・アンド・バランス」のメカニズムである。これぞ，法と正義の存立条件である。（263 ペ）

○角栄後，日本の三権は官僚に簒奪されてしまった。三権分立のないデモクラシーはあり得ない。今の日本は，デモクラシーを止めて役人クラシーの国に成り果てた。「国会は国権の最高機関」（憲法第 41 条）とは名のみであって，実は，官僚の傀儡である。（273 ペ）（柳沢注：その官僚機構の首根っこを「日米合同委員会」がガッチリと抑えているのであるから，何をかいわんやである）

○角栄後，デモクラシーは死んだ。憲法は改正されたと解釈されるべきである。
　確かに，憲法改正の手続きは取られていない。名目上，「日本国憲法」は厳存してはいる。が，それがどうしたと言うのだ。角栄後，日本国の三権は，官僚が独占してしまっているではないか。
　こんなデモクラシーがあって堪るか。人は，ヒトラー治下のワイマール憲法を思い出さないか。ヒトラー治下においても，ワイマール憲法に改正の手続きが取られ，正式に改正されたことはなかった。外見上，ワイマール憲法は存続してはいたのであった。
　が，その実効性はどうか。完全に実効性を失ったことは明白である。
　それ故に，憲法学者は 1933 年 3 月 23 日，全権委任法成立の日を以てワイマール憲法は改正された，と解釈するのである。改正の手続きが全く踏まれていなくても。
　これが，憲法の論理。日本の憲法学者が，理解していても，いなくてもである。
　この論理を，日本国憲法の場合に当て嵌めてみると，どういうことになるのか。
　一体全体，如何にもまだ，日本国憲法に改正の手続きは取られてはいない。
　だが，その実効性（effectiveness）となるとどうか。
　日本国憲法は，角栄後，実効性を失ってしまっている。
　ということは，どういうことか。角栄後，役人が三権を壟断（独占）しているからである。…（中略）…三権，既に役人の掌中にあり，しかも，天下これを知る。日本国憲法は，既に改正された。知らぬは国民ばかりなり。世の憲法屋諸君，これを何と見る。（275 ペ）

○小室「国会の審議とは，ほとんど猿回しのようなものなのですね。〔真の国会〕すなわち根回しの場こそ，テレビで中継してほしいものです」（加藤栄一氏との雑誌対談より）（277 ペ）

○（模範官僚になるための五つの条件）
加藤「…まず第一に，なんといっても能力がなければなりません。第二に，国益とか国民のためという価値観を持っていなければなりません。第三に，責任を取るべきです。そのためには，民意によって免職させることができる，というようにしなければならないのではないでしょうか。第四に，任命については選抜がひじょうに公平で，門地等にかかわらず自由競争のもとに行わなければなりません。第五に，役所に入ってからも特権を乱用しない。これも大切な点です。

これらの条件を満たせば,ずいぶん信頼されることになるでしょうが,現在のところ,このなかのいくつかの条件が満たされていません。(282 ペ)

○田中角栄が死ぬことによって現代日本のデモクラシーも死んだ。
此処まで言い切ることが言い過ぎであるならば，現代日本のデモクラシーの臨終は近い。瀕死である。
皮一枚で首が繋がっている。皮一枚とは，こういうことである。最高裁がロッキード角栄裁判を延ばしに延ばし，有罪を確定させることだけはしなかったからである。(288 ペ)

○われわれの中で，外国の報道機関，外国人の物書き，外国人の法律学者などなど，法律に接触する人々に，次のことをけっして漏らしてはならない。
「田中角栄被告は,ただの一度も最重要証人に反対尋問する機会を与えられることなく,有罪を宣せられたのである」
それを聞いた文明国の人は，百人が百人，千人が千人，万人が万人，一人残らず日本はそんな野蛮国であったのか，と仰天することであろう。われわれはそんな国の恥を,世界の目にさらすことはないのである。(渡部昇一氏の発言『諸君』1984 年 1 月号)
小室氏「渡部昇一教授は法律には素人だが，専門の言語学（英語）の研究を通して欧米社会の精神に精通されており，さすがに鋭い」(293 ペ)

○ロッキード角栄裁判は,暗黒裁判と言われても,反論のしようもないものである。(294 ペ)

○何しろ，国会議員ともあろう者が，一行政官僚に過ぎない検事の主張に追従して，まだ判決も出ない内から角栄有罪という，こんなめでたいことはないと，狂気のように燥ぎ捲った（はしゃぎまくった)。検事はお上。国会議員なんか下々の者である。このセンスが抜け切っていない。否，このセンスにどっぷり浸かっているのである。(299 ペ)

○ニクソンの「大統領の犯罪」と田中角栄の「首相の犯罪」とのその追及の仕方における根本的違いを見よ。(300 ペ)

○日本人はデモクラシーを全く知らない。
その基礎の入門の手解きすら，少しも分かってはいない。このことである。
角栄「前」首相，絶大な権力を有する者と雖も，今や在野の人である。
行政権にタッチしている者ではない。この点,ニクソン大統領とは,根本的に異なる。
即ち，為政者（現役の権力者）ではないのである（当時，権力者は三木首相だった)。
デモクラシーの要諦は，為政者の権力から在野の人を守るにある。…（中略）…
当時の日本人は，デモクラシーに縁なき衆生であることを証明して見せてくれた。こ

れ角栄裁判の効用である。（302 ペ）

○ロッキード事件における新範疇とは何か。
　行政権力と司法権力との野合である。
　これがあったら最後，デモクラシーは，他に何があっても，須臾（ほんの僅かな時間）にして，つまり，忽ち頓死する。故に，デモクラシー諸国が，何としてでも防遏（防止）しようとするところである。にも拘わらず，これが行われた。検察が，前例にも何にもない方法によって角栄逮捕に踏み切り，強引に角栄裁判を行ったというのも，右の野合の結果である。（306 ペ）

○「反対尋問（審問）の機会」なきままの有罪判決…（中略）…これは明白に，憲法違反であり，明白に人権蹂躙である。（憲法第 37 条―刑事被告人は，全ての証人に対して審問する機会を充分に与えられる―）が，もっと致命的なことは，このことに，殆どの日本人が気付いていないことである。知らないのである。憲法第 37 条こそ，実に，「デモクラシー」憲法の急所である。脳髄であり心臓である。此処を切り取られたらデモクラシー憲法は，刹那にして即死する。（307 ペ）

○日本社会では，連帯によって成立した「共同体」（Gemeinde）の外に立つ人間は，「人間扱いしない」。これが今猶，生きている鉄則なのである。（312 ペ）

○つまり，「検察官と裁判所の間は一つの流れ作業であって，切っても切れない関係になっていた」のである。
　その結果，検事が有罪と睨んだ事件が，裁判所で無罪になる例は殆どなかった。
　ウワッ，これは一大事，重大事。こんなことなら，日本には裁判所はない。
　ないも同然ではないか。否，更に重大なことは，「日本には裁判所がない」ということを大多数の日本人は知らない。恐ろしいのはこのことである。（313 ペ）

○裁判で裁かれる人とは，検事である。デモクラシー裁判とは，検事への裁判である。…（中略）…このことを大多数の日本人に理解せしめることは，小学生に移送数学を理解させるよりも難しい。
　法律を全く知らない人に対して特訓して，一年後に司法試験に合格させるよりも難しいかもしれない。だってそうでしょう。歴とした検事，弁護士，裁判官（最高裁長官の経験者を含む）だって，大概の人は，殆ど分かっちゃいないんですから。（320 ペ）

○何がなんでも「真実（事実）を発見する」という教義から被告（容疑者）を守る盾。
　それが，「裁判とは手続きなり」という教義である。
　その要諦は，刑事裁判において，全て完全に合法的な手続きによって得られた証拠以外の「証拠」は，これを法廷に持ち出すことが出来ない。証拠とすることが出来ない。

この「適法な過程」（due process of law）に致命的重要さを置くというイデオロギーこそ，人民（国民）を行政権力から守る盾である。（324 ペ）

○ロッキード角栄裁判は，日本人における裁判観を，余すことなく露呈して呉れた。その意味で，この上なく貴重である。（329 ペ）

○デモクラシー裁判の要は手続きにある。結果にあるのではない。（332 ペ）（柳沢注：この言い回しは〔「天皇退位」の要は「手続き」そのものにある〕と言っていた佐藤優氏の論理展開と相似していることに注目している）

○「千人の罪人を逃すとも，一人の無辜を刑する勿れ」を実現するためには，どうしても「裁判とは手続きなり」「裁判とは方法である」という思想に徹しなければならない。（340 ペ）

○もし，ほんの少しでも不完全なところがあったら，検事の負け。被告の勝ち。無罪。
この意味で，刑事裁判とは，検事の裁判である。被告の裁判ではない。
この点，大岡越前の守による裁判とも，遠山の金さんによる裁判とも，根本的に違う。
必ず，白黒がつくのである。白黒だけがつくのである。（340 ペ）
○ロッキード角栄裁判は反対尋問抜きの裁判なのである。此処まで来ると，欠陥裁判なんていうものではない。ズバリ，暗黒裁判である。
しかも，このルール違反たるや，上級裁判所の判例を無視した程度の違反ではない。
正真正銘の憲法違反である。（346 ペ）

○角栄は，充分な証拠もなく，検察側に起訴の充分な自信もなく逮捕されたのであった。
これでは，誰が推理しても，何か大きな闇の力が働いたと，こうしか言いようがあるまい。
その一つは，エスタブリッシュメント側の田中潰しであろう。（349 ペ）

○まず驚くのは，最高裁が，あっという間もあらばこそ，忽ち検察側のグルになってしまったこと。
裁判官は被告の味方である。裁判とは検事の裁判であるとのデモクラシー裁判の大原則が完全に無視され切っている。このことである。（353 ペ）

○反対尋問されなかった証言そのものに効力はない，というのが致命的に重大なのである。それが「法の精神」なのだ。（354 ペ）

○明文の規定もないのに外国の裁判所に尋問を嘱託するなんて違法。そこで得られた自白は信用できない。（357 ペ）

〇コーチャン，クラッターに虚偽の可能性がまったくないと言い切れるだろうか。
　後でもう一度触れることになりますが，そのような可能性のまったく否定しきれない証人であるがゆえにこそ，この種の証人に対して，被告側に，憲法の保障する反対尋問権の行使の機会を与えないままで，これを証拠とすることは許されないという問題が出てくるのです。（359 ペ）

〇ロッキード角栄裁判は，憲法違反の物的証拠なき，違法で信頼が置けない自白しか証拠のない暗黒裁判である。この暗黒裁判で角栄は殺され，デモクラシーも殺された。
　あなたも殺されるかもしれない。
　刑事免責され，あなた（の弁護士）が「証人に対して充分にこれを審問する権利」を否定された外国で「彼は多数の人を虐殺しました」と自白されたらどうする。
　あなたも死刑になるかもしれないのだ。（360 ペ）

〇政界は四分五裂の時代を迎え，議会で自由な議論を通じて国策を決定する機運は，もはや見る影もない。立憲政治の終焉である。
　更に，国権は政治家不在，官僚がこれを簒奪し，法律を作り，解釈し，施行するのは役人の一手販売と堕してしまった。デモクラシーの窒息である。…（中略）…米ソに大軍事大国の箍が素っ飛んでしまった今日の“乱世”において，我が国の政治は，政治家は，これで良いのか。
　何時，何処かの国の核ミサイルが日本に飛んで来るかもしれないというのに。（361 ペ）（柳沢注…細かな点は少々異なっているが，これはまるで現在を予言しているかのような文章ではないか！）

〇江戸末期，頼山陽は蒙古来襲を迎え撃った北条時宗（相模太郎）を詠んで，「蒙古来」「……蒙古来る　北より来る。東西を次第に呑食（どんしょく）せんと期す。……これを持し来たり　擬す男児の国に　相模太郎は胆　甕の如し……」
　言うまでもなく，頼山陽の目にはインドを，東南アジアを，更には中国を侵略し，ひたひたと日本に忍び寄る当時の欧米列強（英・米・仏・独・露）の魔手は，元寇以上の国難と映っていたことだろう。
　つまり，その真意は「相模太郎よ，再び出でよ」なのである。
　国難の時代にあっては，政治家の胆力は大きな水甕のように，並外れたスケールのものでなくてはならない。
　だが，已んぬるかな官僚・役人には，これを寸毫も期すべくはない。
　今，頼山陽の顰（ひそみ）に倣えば，「田中角栄よ，再び出よ」であり，その声が，唯一の絶対権力者たる国民の間に澎湃（ほうはい）として高まらんこと，それを，只祈るのみである。（完）（362 ペ）

〇小室直樹博士の最期の言葉（「編集後記」に相当するエピソード）
小室先生がお茶のひととき，
「人の世の喜びも悲しみも，見たり味わったりしてきましたが，悟りを得れば，輪廻転生の外に解脱して，生まれてこないで済むと聞きますが，また生まれてきたいなんて思われますか？」と問われ，
「生まれてきたい！」と小室先生が大きな声で力強く言われたので，驚いて思わず「何に？」と聞き返したところ，
「独裁官！」と。
　間髪を入れずお答えになったと聞いています。同席してこの話を聞いた方は，「ユーモアのつもりで」聞いたようで，「猫」と答えるかと思ったそうです（小室先生の猫好きは有名です）。
　その話を，通夜の席で聞かれた名誉教授の方は，「小室先生が，清潔なる『独裁官』を考えなければならないほど，日本の将来は決して明るくない。私もまた同意見です」と。

そして問題は「教育」にあると解説をしてくださったそうです。（365 ペ）

◆まとめ　小室直樹著『日本いまだ近代国家に非ず』（ビジネス社・2010 年）を読んだ。<u>最近の非民主的な国政運営の淵源が田中角栄裁判にあることが明確に分かった。小室先生の卓見にうなるばかりである</u>。

◎河合雅司著『未来の年表―人口減少社会でこれから起きること―』（講談社現代新書・2017 年）

「まえがき」の太字部分をそのまま引用。

〇いま取り上げるべきなのは，人口の絶対数が激減したり，高齢者が激増したりすることによって生じる弊害であり，それにどう対応していけばよいのかである。（6 ペ）

〇こんなに急激に人口が減るのは世界史において類例がない。われわれは，長い歴史にあって極めて特異な時代を生きているのである。（8 ペ）

〇日本の喫緊の課題を改めて整理するなら，４点に分けられる。一つは，言うまでもなく出生数の減少だ。二つ目は高齢者の激増。三つ目は勤労世代（20～64 歳）の激減に伴う社会の支え手の不足。そして四つ目はこれらが互いに絡み合って起こる人口減少である。（9 ペ）

〇求められている現実的な選択肢とは,拡大路線でやってきた従来の成功体験と決別し,戦略的に縮むことである。（11 ペ）

〇われわれが目指すべきは，人口激減後を見据えたコンパクトで効率的な国への作り替えである。（12 ペ）「まえがき」からの引用は以上。

次に「目次」から気になった部分をそのまま引用する。
序　2016 年，出生数は 100 万人を切った
2017 年　「おばあちゃん大国」に変化
2018 年　国立大学が倒産の危機へ
2019 年　IT 技術者が不足し始め，技術大国の地位揺らぐ
2020 年　女性の 2 人に 1 人が 50 歳以上に
2021 年　介護離職が大量発生する
2022 年　「ひとり暮らし社会」が本格化する
2023 年　企業の人件費がピークを迎え，経営を苦しめる
2024 年　3 人に 1 人が 65 歳以上の「超・高齢者大国」へ
2025 年　ついに東京都も人口減少へ
2026 年　認知症患者が 700 万人規模に
2027 年　輸血用血液が不足する
2030 年　百貨店も銀行も老人ホームも地方から消える
2033 年　全国の住宅の 3 戸に 1 戸が空き家になる
2035 年　「未婚大国」が誕生する
2039 年　深刻な火葬場不足に陥る
2040 年　自治体の半数が消滅の危機に
2042 年　高齢者人口が約 4000 万人とピークに
2045 年　東京都民の 3 人に 1 人が高齢者に
2050 年　世界的な食糧争奪戦に巻き込まれる
2065 年~ 外国人が無人の国土を占拠する（以下略）

〇日本を救う 10 の処方箋
【戦略的に縮む】
1. 「高齢者」を削減
2. 24 時間社会からの脱却
3. 非居住エリアを明確化
4. 都道府県を飛び地合併
5. 国際分業を徹底
【豊かさを維持する】
6. 「匠の技」を活用

7. 国費学生制度で人材育成
【脱・東京一極集中】
8. 中高年の地方移住推進
9. セカンド市民制度を創設
【少子化対策】
10. 第三子以降に 1000 万円給付

〇―未来を担う君たちへ―（中学・高校生や大学生への著者からのメッセージ）（事実上の「あとがき」）

皆さんは，少子高齢社会について真剣に考えたことがありますか。これは日本で暮らすすべてのひとが関わらずにはいられない問題です。極めて厳しい現実もありますが，包み隠さずお話ししたいと思います。日本の行く末を見つめ，自分たちを待ち受ける社会とどう向き合えばよいのかを考えるには，まず真実を知ることが大切であると思うからです。

日本はすでに 4 人に 1 人が高齢者という社会に突入しました。高齢化は随分進んできています。ですが，実際には高齢化はこれからが本番です。私は，皆さんが 40 代となり，社会の中心で活躍している 2040 年初頭こそ，日本社会にとっての「最大のピンチ」の時期であると考えています。人口ボリュームの大きい団塊ジュニア世代（1971～1974 年生まれ）が 70 代となって，2042 年に高齢者数はピークを迎えるからです。

人口減少問題では高齢化率（総人口に占める 65 歳以上の割合）がクローズアップされることが多いのですが，むしろ注目すべきは「人数」のほうです。高齢になれば大きな病気を患いがちです。入院用ベッドも介護サービスも，高齢者の絶対数が増えることに応じて増やさなければならないからです。

私が，2040 年代初頭を「最大のピンチ」と位置づける理由はもう一つあります。これは「日本の不幸」とも言うべきことなのですが，団塊ジュニア世代というのは就職氷河期と重なった世代でもあるのです。大学を卒業しても思うように就職ができず，40 代半ばに至った今でも定職に就いていなかったり，仕事があっても低収入を余儀なくされたりしている人が少なくありません。団塊ジュニア世代に続く世代にも同じような状況の人が数多くいます。一方で，団塊ジュニア世代より少し前の世代といえば，中高年になってからリストラや大幅な賃金カットに見舞われたケースが珍しくありませんでした。

つまり，2040 年代初頭の高齢者には無年金や低年金の人がたくさん出てきそうなのです。他方，団塊ジュニア世代は，あまり子どもを生みませんでした。「第三次ベビーブーム」は到来せず，その後も，少子化は進んでいきました。このため，団塊ジュニア世代を支える世代というのは，極めて人数が少ないのです。2040 年代初頭には社会の支え手（20～64 歳）は随分減って，総人口の五割に満たないと予測されています。これでは，その頃，支え手世代の中心となる皆さんは大変に厳しい状況に追い込まれてしまいます（これを私は「2042 年問題」と呼んでいます）。

「2042 年問題」の解決を，皆さんの世代に押し付けていいわけがありません。私を含め，

現在，社会で活躍している 40 代や 50 代は，皆さんが背負わなければならない荷物を少しでも軽くするように対策に乗り出さなければなりません。

ところが，政治家も官僚も，団塊世代が 75 歳以上となり高齢者が急増する「2025 年問題」の対策に追われて，余裕がありません。「2042 年問題」にまで手が回らないのが実情なのです。

私は，皆さんが背負わなければならない荷物を一つでも二つでも減らしたいという思いから，本書で「10 の処方箋」を示しました。まず，私たち 40 代や 50 代が今取り組むべき課題は，労働力人口が大きく減少していくことへの対策であると考えています。その解決は皆さんの世代に向けた「責務」でもあります。

「10 の処方箋」以外にも，やるべきことはたくさんあります。たとえば，団塊ジュニア世代などで就職がままならなかった人たちに,今からでも定職に就いてもらうことです。職に就いても，年金保険料の残された支払期間を考えれば無年金・低年金を避けられないかも知れませんが，彼らはまだ 40 代半ば以下です。自分が食べていけるぐらいの収入を得られるようになって 60 代半ば以降まで働けば,「2042 年問題」の負担を少しは軽くできるでしょう。40 代の人を雇ってくれる企業はなかなか見つからない現実もありますが，若者流出が止まらない地方には，若い労働力を求めているところがあるはずです。

人口減少問題への対策は一朝一夕にはできません。その効果が現れるのに数年から数十年かかる政策も少なくないのです。2042 年まで残された時間は 25 年です。「まだ 25 年もある」と受け止めるのか,「あと 25 年しかない」と感じるかは人によって違うでしょう。ただそれは，何もしないでいるには長すぎるが，何かに取り組むにはあまりにも短い時間でもあります。

人口減少も少子高齢化も一挙に解決する“魔法の杖”など存在しませんが，本書の人口減少カレンダーは，何をすべきかを考えるヒントになったのではないでしょうか。

この「国難」とも言うべき課題は一つの世代だけでは解決しません。皆さんもいずれ親になる時が来るかもしれませんが，皆さんの子どもの世代にも引き継いでいかなければならない問題でもあるのです。皆さんの世代は，人口減少というロングスパンで構えなければならないテーマの中で，どの部分，どの課題を解決するミッションを受け持つのでしょうか？　それは皆さん自身，また皆さんの世代において考えるべきことです。

私は人口減少を「静かなる有事」と名付け，警鐘を鳴らし続けています。一緒にこの問題を考えていきましょう。本書が皆さんの手引書となることを願っております。(203 ぺ)

感想…人口減少は私が今まで考えていたよりもはるかに重要で，楽観視できない大きな問題であることがわかった。未来という予想図の大まかな形であってもわかっていることはとても重要なことである。今後も機会を見て，この大きな問題について考えている書籍を読むことで，私自身と影響を及ぼし合う人たちのために何をなすべきかを考えていきたいと強く思った。

9 月 19 日（火）の「金融財政講演会」（日銀長野支店主催）で，ライフネット生命創業者の出口治明氏が「若年層が高齢者の生活を支えるべきだという前提自体を変える必要がある」と述べていた。いまさらながら，これは卓見であると思った。

◎出口治明著『座右の書「貞観政要」』（KADOKAWA・2017 年）（私物）
面白い。深い。ためになる。指導者，特に管理職・教師は必読だと思う。ここまでか書いたが時間切れのため，来月号に持ち越すことにする。

◎山本七平編『帝王学―「貞観政要」の読み方』（日経ビジネス文庫・2001 年）（私物）
『貞観政要』を上掲書とはまた違った形で読み解いた本。読みやすい。出口氏の書いた本と合わせて読むと，『貞観政要』の内容が二次元的に拡がる。山本七平氏の好みの分野がこれを読むと分かるような気もする。詳しくは来月号で。

◎呉兢（ごきょう）著・守屋洋訳『貞観政要』（ちくま学芸文庫・2015 年）（私物）
原文と書き下し文，価値判断の入っていない穏健な解説が収録されている。手元に置いて，時々読めばいいのではないか。やってみることにする。詳しくは来月号で。

◎佐々木常夫著『ビジネスに活かす「孫子」』（PHP ビジネス新書・2017 年）（私物）
検索でかかったので，予約注文をして入手。大変に面白かった。詳しくは来月号で。

◎早野龍五・糸井重里共著『知ろうとすること。』（新潮文庫・2014 年）（本書は文庫オリジナル作品）
11 月 11 日（土）からの旅行に持っていって読んだ。東京への新幹線の中で読了した。薄くてとても読みやすい本。福島第一原発事故の状況について，冷静で信頼度の高い情報をツイッター状に発信した経験を持つ早野氏の言葉には静かな説得力が感じられた。カバー裏の宣伝用の記述から部分的に引用。

○早野龍五氏は 1952 年生まれ。物理学者。専門はエキゾチック原子。世界最大の加速器を擁するスイスの CREN（欧州合同原子核研究機関）を拠点に，反陽子ヘリウム原子と反水素原子の研究を行う一方で，2011 年 3 月以来，福島第一原子力発電所事故に関して，Twitter から現状分析と情報発信を行う。
糸井重里氏は 1948 年生まれ。コピーライター。「ほぼ日刊イトイ新聞」主宰。広告，作詞，文筆，ゲーム制作など多彩な分野で活躍。東日本大震災以来，福島で継続される早野氏の情報発信活動に注目していた。（以上，カバー裏から部分的に引用）

本文で気になった部分は下記。
○早野　今回の事故で「社会に巣立って行く人たちにとって科学的なリテラシーがいかに必要であるか」ということが，よくわかりました。科学的なリテラシーというのは，

教わって得られるものじゃなくて，自分で鍛えて身につけていくものだと思ってます。今の福島には，科学的なデータや事象など，たくさんの教材があります。さらに高校生たちは，それらを自分のこと，あるいは自分の家族のこととして，真剣に考えることができる環境にあります。その環境を十分に活かして考える力を発揮してもらえるといいな，ということを思っています。（168 ペ）

◇次回以降の予告

◎ローレンス・A・カニンガム著／長尾慎太郎監修『バフェットからの手紙（第 4 版）』（Pan Rolling 株式会社・2016 年）（私物）
◎森田敦史著『なにもしていないのに調子がいい』（クロスメディア・パブリッシング・2016 年）（私物）
◎島地勝彦著『神々にえこひいきされた男たち』（講談社＋α文庫・2017 年）（私物）
◎板倉聖宣著『増補版・模倣と創造』（仮説社・1987 年）（私物）
◎鐸木能光（たくきよしみつ）著『シンプルに使うパソコン術』（講談社ブルーバックス・2007 年）（私物）
◎八代目桂文楽著『芸談あばからべっそん』（ちくま文庫・1992 年）（私物）
◎星新一著『気まぐれ指数』（新潮文庫・1973 年）（私物）
◎勝部真長（かつべみたけ）著『上に立つ者の論理』（PHP 文庫・1994 年）（私物）
◎マックス・ウェーバー著・中山元訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（日経 BP クラシックス・2010 年）（私物）
◎牧野雅彦著『新書で名著をモノにする「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」』（光文社新書・2011 年）（私物）
◎廣松渉・加藤尚武編訳『ヘーゲル・セレクション』（平凡社ライブラリー・2017 年）（私物）
◎西鋭夫著『國破れてマッカーサー』（中公文庫・2005 年）（私物）
◎アレックス・ラインハート著・西原史暁訳『ダメな統計学―悲惨なほど完全なる手引き書―』（勁草書房・2017 年）（私物）
◎文藝別冊『KAWADE 夢ムック・立川談志』（河出書房新社・2013 年）（私物）
◎新津新生（あらお）著『蚕糸王国長野県―日本の近代化を支えた養蚕・蚕種・製糸―』（川辺書林・2017 年）（私物）
◎植田康夫著『編集者になるには』（ぺりかん社・1994 年）（廃棄本）
◎小木曽健著『11 歳からの正しく怖がるインターネット』（晶文社・2017 年）
◎立川談志著『努力とは馬鹿に恵えた夢である』（新潮社・2014 年）（私物）

◇まとめ・つぶやきなど

○只今，10 月 18 日（水）16:00，今日は面接週間なので職員会議がない。この貴重な時

間に 11 月号のスタートを切っておく。今回の脱稿目標は 11 月 17 日（金）12:00 に仮に設定しておく。サークル 11 月例会 25 日（土）までに余裕を持って迎えるために。
〇朝，コーヒーを飲みながら思いついた川柳。最近の政党の状況について詠んだもの。「やめるのは始めるよりも難しい」。さらに，別に授業中に思いついたもの。「忘れるな次の時間は実験だ」「忘れずにプリント持ってくるように」。空き時間に転記する。〔10 月 19 日（木）14:35〕
〇10 月 15 日（日）坂城町勤労者福祉センターのトレーニングルームでメモしたものを転記する。「目指すのは心の中で生きる人」…たとえば，原節子さんは亡くなってしまったが，映画作品やそれを「観た人の心の中で生きている」。恩師戸田忠雄先生は亡くなってしまったが，「私の心の中で生きている」。
〇三行コント「やまびこ」も川柳も載るか没になるかのどちらかで他の結果はない。載ったらどういうものが載るかが分かるし，載らなかったら，どういうものが載らなかったかが分かる。「必要なのはデータの蓄積」。〔以上二つ 10 月 19 日（木）15:05〕
〇クラシックの巨匠が名演を成し遂げる秘密が分かった気がしたので，これを狂歌で。
「もしかしてこれが最後？」と思わせて本気引き出す匠の技よ　ベーム・ヨッフム・チェリビダッケ・ヴァント・ザンデルリンク・アーノンクール・2017 年秋現在ではブロムシュテット…。漫談ではケーシー高峰。
〇演奏会はどれも一期一会のはずだが，「本気」の演奏会はなかなかない。落語家もいつも楽しく話してくれるが，毎回毎回いつも「本気」の話芸が聴けるわけではない。授業も同じ。いつも 100 点ばかり狙ったら体がもたない（**古今亭志ん朝**はこれが原因で寿命を縮めたのではないか）。それでも「今日が最後の授業かもしれない」と思えば，本気が出せるかもしれない。巨匠の心身は「これが最後かもしれない」というオーラに溢れている（明け透けに，端的に言えば「よぼよぼ」）。オーケストラの楽員がこれを全く感じないはずはない。名演の秘密はここにあるのではないか。巨匠の演奏会には常に生前葬の趣が漂う。〔10 月 21 日（土）6:03〕

〇新聞・雑誌等への投稿が掲載されるプロセスは「オーディション」である。…ということは，投稿する前の段階で自分の中でのオーディションをすればいい（「オーディションしてはいけない訳がない」）。「候補作たくさん作り競わせる」。今週の『週刊文春』「川柳のらりくらり」のお題は「葱（ねぎ）」。〔10 月 24 日（火）10:03〕
〇クラスマッチ初日。あいにく，天気は雨。午前中，篠高図書館でセンター試験向けの演習問題プリント切り貼り作業。かなり捗る。「明るい光広い机は素晴らしい」。正午までに投函すれば，今日の消印が押されるので安心できるから，急いで川柳を吐いてみる。「薬味ねぎいつでも取れる田舎住し」「あいまいな答えの心ねぎの色」。二句作り終えてひとこと。「オーディションせずにともかく投函す」。昼食を摂ってから転記する。〔10

月 25 日（水）13:03〕
〇英語科坂口先生（若手女性教師）の研究授業の朝，何の脈絡も根拠もなく，突然思いついたキャッチコピー「授業を秘蹟としないために」。(「秘蹟」はキリスト教の儀式，良く意味がわからないが，メモしておくことを第一に優先）誰の授業であっても，現代の授業は世界に向かって開かれている。「なぜならば世界に拡がる網（ネットワーク）を持つ人が大勢いるからだ」。公開・非公開にかかわらず，好むと好まざるとに関わらず，全ての授業は世界に向かって開かれている。〔10 月 27 日（金）8:33〕（追記：坂口先生の公開授業はとても自然で，かつ現代的な授業で良かった。）
〇エデュケーション＝education の訳語は「教育」より「導出」の方がイメージが湧く気がする。〔10 月 27 日（金）15:28〕
〇人生を充実させるための川柳，こういうのはどうだろうか。「私たち一人ひとりがかぐや姫」。ブラームスのヴァイオリン協奏曲をかぐや姫になったつもりで聴くと，熱いものがこみ上げてくる。チャイコフスキーの交響曲第 6 番「悲愴」も同じ聴き方をすると，聴き終えた後，まるで生まれ変わったような気持ちになる。「瞬きひとつの間の一生…」（中島みゆき）「生老病死」（ブッダ）。毎朝，毎晩，一生が始まる，一生が終わる，…という気持ちを忘れずに生きると，何か良いことがたくさんありそうな気がする。
〇「人間は褒めてくれる人好きになる」。つきあいたい相手がいるときは，外見を褒めることを忘れないのはもちろんだが，相手の思想（哲学）（内面）の素晴らしいところを具体的に褒めればいいのではないか。「口説きたい相手がいたらその時は外見を褒め（思想を）（哲学）（内面）褒めよ」。〔以上，10 月 28 日（土）8:20 今日は模試の日〕
〇模試に来ていた生徒たちと話していたら，開始時間を過ぎていた。「雑談で開始時間を過ぎていた」「《年寄りはいつも話が長くなる》こんな警句で我が身を律す」。物理学者，小柴昌俊さんの講演を聴いたとき，質疑応答まで含めて時間ピッタリに終わったことを今でも鮮明に覚えている。
〇五七五は俳句・川柳で序破急に，七七七五は都々逸で起承転結に，五七五七七は短歌・狂歌でこれも起承転結に対応しているような気がした。朝日川柳ではときどき七七の川柳も掲載される。予備校の漢文の授業で習った起承転結の説明小唄。「京の四条は糸屋の娘　姉は十八妹は二八　諸国大名は鉄砲で殺す　糸屋娘は目で殺す」(それぞれの節で情景が目に浮かぶような見事な小唄だ)。新垣（叔明）先生もういない。
〇新垣先生から習った漢字の読みの覚え方「巳（ミ）は上に已（や）むイは已（すで）に半ばなり己（おのれ）つちのとコキ下につく」。
〇島地勝彦氏（エッセイスト）に逢うために準備を進めている。作戦の概略。島地勝彦氏のエッセイには人生を充実させるためのヒントが溢れかえっている。素晴らしい。どこが素晴らしいかを生徒に伝えて，島地氏の文章を読んでもらい，感想を書いてもらう。まず，これが生徒のためになる。生徒たちに書いてもらった感想文を読んで，私も良い仕事ができたことが確認できてうれしい（10 月 28 日現在，ここまで順調に進行中)。これを島地氏に予め送って読んでもらう。おそらく島地氏は喜んでくれるはずである。三方それぞれに幸せになる…といいなぁと思いつつ，「愛すべきあつかましさで直あたり」

を試みる。島地氏は毎週末，新宿伊勢丹のメンズ館で「サロン・ド・シマジ」というバーを営業していて，接客をしているらしい。11 月 11 日（土）に上京し，島地氏に会う予定。この日の夜は大学時代の仲間（少林寺拳法部）と酒を酌み交わす予定。計画が決まった初秋から毎日ワクワクしている。
〇「錦秋の豊葦原に嵐二度」「錦秋の瑞穂嵐が二度襲う」「永田町諸行無常の流転あり」以上三句はまだ推敲の余地あり。
〇向田邦子さんの墓碑銘（森繁久彌作）「**花**ひらき，**はな**香る，**花**こぼれ，なほ薫る」。五五五五の美しい響きとそのあとの余韻。向田邦子さんは 1981 年に 51 歳で逝っている。
〇女性の場合，親，子，孫，ひ孫，**玄孫**（**やしゃご**），　来**孫**（らいそん），昆**孫**（こんそん），仍**孫**（じょうそん），雲**孫**，…と続くらしいが，この関係は，位相幾何学的にマトリョーシカになっていることに気づいた。子宮の中に子宮があり，その中にまた子宮がある…これが続いていくイメージ。〔以上，10 月 28 日（土）模試監督の合間に〕
〇一時間目の 2 年 6 組で化学の授業中（水のイオン積），思いついた川柳。すかさずメモしてパソコンに入力する。「あわてるな最後の詰めは単位です」〔10 月 30 日（月）9:55〕
〇「ひと文字で川柳になる漢字あり」。「**翀**　＝　まっすぐにてんくうたかくとびあがる」「これを読み想いて詠んだ私の句」「この文字は漢字一字で川柳だ」（柳沢作）（ https://enpedia.rxy.jp/wiki/%E8%A8%93%E8%AA%AD%E3%81%BF%E3%81%8C%E9%95%B7%E3%81%84%E6%BC%A2%E5%AD%97）
〇一時間目の授業は楽しかった。米国からの留学生のマックス君と映画『バック・トゥー・ザ・フューチャー』（1985 年公開・米国）の話ができた。マックス君と話しながら“W”is the first letter of water. が正しい表現になっていることが確認できた。「模試には準備と当日と復習がある。これはデートと同じなんだ」という話もできた。これらの話は雑談ではなく，ちゃんと生徒に水のイオン積を教える本筋と大いに関係がある。たぶん，これらの話があるのとないのとでは今後の学習に大いに違いが出てくると思う。このことについては絶対に比較対照実験ができないのであるが。その場で思いついたことを話しているのだが，授業の本筋は外れていない…これはなかなか高度な芸なのではないか…と自分で自分を褒めてみる。私はいま「好調先生」であり，これが錯覚でないことを続く授業で確認する必要がある。
〇私が高校時代に化学を習った故・柳沢宏先生がことあるごとに「私たちはみんな〈宇宙船地球号〉の一員だ」と仰っていた。その意味はいま考えても（いま考えるからこそ），とても深いものがあると思う。私にとってこの言葉は，かけがえのない古典だ。
〇人生は船旅に似ている。同じ船に乗り合わせた時間をお互いに楽しく過ごせれば幸せだ。〔以上，10 月 30 日（月）11:18〕
〇いま私が考えていることが，ペン先から紙へ書き下ろされ，指先からパソコンへ出力される。大宇宙のことも，蝸牛角上のことも，過去も未来も現在もペン先，指先の数平方㎜，数平方㎝に凝縮されて文字や画になって読者に届く。何とロマンティックなことだろうか。〔以上，10 月 30 日（月）11:53〕

○お題は「ケーキ」。川柳のらりくらりに投句。「具体的取り組みやすいお題だな」。「田舎町昭和のケーキまだ買える」「甘くないケーキに俺は甘くない」「ケーキより食べたい君の微笑みが」。
○昼食後の歯磨きをしながら思いついた句。「ペンと剣連想すべき価値がある」。ペンは未来を切り拓くが直接には相手の命は奪わない。剣は未来を切り拓く。場合によっては相手の命を奪う。源氏物語と平家物語のような違い。
○「とわいえ」＝「青空の向こうに見える父の顔」「雨上がり虹の向こうに青い空」。「信毎柳壇」＝「嵐過ぎ嵐始まる永田町」「革命を叫ぶ総理がいる不思議」「政（まつりごと）総て総理の縦（ほしいまま）」。「川柳のらりくらり」＝前掲。「3 枚のハガキに書いて投函す」。〔以上，10 月 30 日（月）14:40〕
○プリントチェックの最中に作った短歌「師となりて人生の朱夏はや過ぎて二十九回目の冬が来る」〔11 月 1（水）9:10〕
○プリントチェック中に作った（というより，できてしまったと言う方が適切か）川柳的教訓。勉強したことについて。「記憶して使えるようにしておこう」〔11 月 1（水）9:33〕
○11 月 1 日（水）22:00 頃，布団の中に入って思いついた短歌，「人生は大玉送りかぐや姫いつも書くもの持っているべし」解釈…人生は先人から受け継いだ命や文化をひととき担って後世に伝えるかけがえのない時間。かぐや姫のようにいつかは宇宙に還らねばならぬ。この時間を充実させるためにはまず書くことが大切だ。「いつも書くものを持っていることが大切だ」（これは母校での教育実習時の担当教頭，細川修先生から教えていただいた味わい深いひと言）。
○11 月 1 日（水）午後 2 時頃，島地氏への書類一式の入った封筒を仕上げ，近くの簡易郵便局で手続き。送料 380 円。じつはゆうパックの方が 20 円ほど安くて 360 円で遅れると判明したが，作り直すほどのこともないのでそのまま送った。
○財布の中にあったメモ。（川柳）初めての還暦祝うケーキ食べる，国政と市政の間取り七日間（選挙が続いた長野市）。惨敗は準備あっての言葉（結果）なり（トレーニングジムでよく会う武井さんのマラソン結果についての含蓄あるお話にもとづき作句）。
○メモ，本当に偉い人は諫言（かんげん）してくれる人を大切にする。『貞観政要』。
○イノベーションについての分かりやすい説明，山本夏彦氏の言葉「いかさまの才」がこれにあたるのではないか。著書に『世はいかさま』（新潮社）がある。〔以上，11 月 3（金・祝）公開授業の日，16:33〕
○10 月 31 日（火）に電車の中で書いた手帳のメモを転記。①教師の仕事も医師の仕事もその完成形は対象者との別れである。これは恋愛に似ている。②公欠届の出し方，面接練習のお願いの仕方について,「絶妙のたとえ話を思いつく」。その内容は次のとおり。前にいた学校で軟式野球の部長をやっていた。大会の運営を何度もやった。いろんなことが分かった。やっているうちに，試合が始まる前からどちらのチームが勝つか，なんと 9 割方わかるようになったんだ。それはね，とても単純。驚くほど単純。一つ目は「早く来たチームが勝つ」。二つ目は「元気が良いチームが勝つ」。この二つの組み合わせで分かるんだ。元気が良いということは，細かく言えば礼儀正しさだったり，挨拶や掃除

がきちんとできることだったり，プレーが俊敏だということだったり，良く気がつくことだったりする。要するに「生命力」が大事ということ。

さて，別のように思えるかもしれないけれど，つながる喩え話をする。コンビニを経営しているAさんは自治会の役員だ。来年度の役員をBさんに頼もうと思っていたところ，ちょうどBさんが買い物にやってきた。レジの後でAさんはBさんに言う。「ちょうどよかった。来年度の自治会の役員をあなたにお願いしたいのです」。ここで問題。Bさんはこの Aさんのお願いを受け入れてくれるでしょうか。前の席に座っている生徒に指名すると，「ダメだと思う」との答。私「そうだよね。ダメだろうね。なぜかな？」。生徒「Bさんは気持ちの整理がつかないから」。私「そうだよね。じゃあ，どのようにしたらBさんは役を引き受けてくれるだろうね？」。生徒「Bさんの家に足を運んで頼む」。私「そのとおり。それが筋だね。人の道だよね」。公欠するときに，短冊に必要事項を書き込んで先生のところに持っていくよね。あの紙になんて書いてあるだろうか？　生徒「公欠…公欠願」。私「そう。あれは公欠願，お願いなんだよね。どうやってお願いするかということについては，グレードがあって，スマホの利用プランのグレードとちょっと違うのは，どのグレードでも自由に選べて，しかもタダ。無料で好きなグレードが選べる。そう，みんなは自由なんだ。どのグレードで行動するかは自分で決められる。選べるんだよ！　ア．早いか，遅いか，イ．教室に授業に来た先生に渡すのか，研究室まで行って渡すのか，全部で四通りある中から，みんなが選んで行動できる。これが生命力なんだ。…という話である。生徒たちの反応は，驚くほど素晴らしかった。目が輝いていて，みんな背筋がピンと伸びていた。話を始める前のプラン+αまで話すことができたかも知れない。え～，良かったら誰か追試してくれませんか。じつは，そのあとにオチがある。この授業が終わった後，すぐに私に公欠届を出した生徒がいた。「キミはこの方法を選ぶんだね」と訊いたら，その生徒は黙ってうなずいたので，「そうか」と言ってから，私はこの公欠届を受け取った。苦笑。〔11月3（金・祝）公開授業の日，16:58〕

〇授業とは，普通は教室における「組織化されたコミュニケーション」であり，「人間による創造」である。しかし，よく考えてみると，教室の中でなくても授業はできる。学校でなくとも授業はできる。この考え方を拡げると，立川談志が確立した方法論＝「寄席でなくとも落語はできる」と相似形をなす。「黒板がなくてもプロジェクターでチョークアートができる」方法をネットで公表している人もいる。授業書も立川談志も，どちらも「創造的破壊」をもたらすのだ。〔11月4（土）進研マーク模試の日，10:18〕

〇私が初めて「授業」をした塾はいまはない。だが，房総に塾長さんが隠居されている。11月12日（日）に会えれば良いなと思い，下調べを進めている。すでに地図は打ち出した。お元気ならばうれしい。会えたときの映像を脳裏に浮かべながら，準備を進める。これも想像であり，創造だろう。〔11月4（土）進研マーク模試の日，11:02〕

〇長野県の鉄道網のうち，篠ノ井駅と塩尻駅は，その役割がよく似ている。〔11月4（土）進研マーク模試の日，14:06〕

〇島地勝彦氏の言う「愛すべきあつかましさ」はマキャヴェリの言う「徳（ヴィルトゥ）」，または「生命力」と同じことなのではないか。〔11月4日（土）14:20〕

〇今回の旅行の概要を固めた。グランドツアーの趣がある。11 月 11 日（土）午前…東京へ移動。午後…新宿伊勢丹で島地勝彦さんに会う。夜…大学時代の友人と会う。成田で一泊。12 日（日）午前…成田を出発。いすみ市へ。午後…大学時代にお世話になった塾長さんと会う。夜…東京泊。13 日（月）昼前後…武田研究奨励金贈呈式に出席。午後…板倉先生のお見舞い。その後，巣鴨の仮説社へ。夜…帰宅。…という構成。〔11 月 5 日（日）4:30〕
〇米国トランプ大統領が到着するのは羽田でも成田でもなく，横田基地である。目が覚めているならば，これが何を意味しているのかが分かるはずである。「公務でゴルフ何が楽しい」「肩書外しゃ下卑た成金」〔11 月 5 日（日）12:00〕
〇習志野学習センターでお世話になった塾長さんの上林先生と連絡が取れた。11 月 12 日（日）の訪問を快諾して頂いた。電話の声は，昔とほとんど変わらず，お元気そうだった。うれしい。会えるのが楽しみだ。〔11 月 7 日（火）〕
〇授業中に思いついたこと。「教師はチョーク一本で数十人の生徒集団を牽引する。性急すぎれば生徒は付いて来ず，鈍重すぎればチョークは重みで折れる」〔11 月 8 日（水）10:25〕
〇6 時限目の授業中にできた句。「プリントを（忘れず）（必ず）持ってくるように次の時間は答合わせだ」〔11 月 8 日（水）16:05〕
〇ここで旅行関連の仕事に入るため，メモ作成しばらく保留。
〇11 月 24 日（金）再開。
〇ほんとにあったことからジョークができた。…読書に夢中になっていて，試験監督に行くのを忘れていたので，催促の電話がかかってきた。読んでいた本の題名は『どうすれば仕事のミスをなくせるか』だった（笑）〔11 月 24 日（金）13:00〕。
〇締切は階段に似ている。人が階段なしに上昇することは難しい。階段なしに上昇できるとすれば，エレベーター，エスカレーター，飛行機など，非日常的な道具が必要。〔11 月 24 日（金）14:40〕
〇机周りの整理整頓をすると，確かに仕事のスピードが上がる。私の場合，本に書いてあったとおりだった。本に書いてあるからそう思えるのか，そう思って整理整頓するから自己暗示がかかってスピードが上がるのか，良く分からないが，整理整頓はした方が良いという経験則が得られている。…ニワトリが先か，卵が先か…いずれにせよ，「白い猫にせよ，黒い猫にせよ，鼠を捕る猫は良い猫だ」（鄧小平）。〔11 月 24 日（金）14:50〕
〇ほかに，スピードが上がるだろうと思われるのが，バッグの中身の整理整頓だ。明日のサークルに持っていくモノを確認するため，早速これから取りかかることにする。…「歯ブラシを取り替えるのも良いことだ」〔11 月 24 日（金）15:40〕
〇予定の時刻となったので「本稿はこれで打ち留め印刷へ」。「最後までお読み下さりありがとう」。「午後すぐに次の仕事に取りかかる」…と書いたが，「イメージ通り進まぬコトも」。〔11 月 24 日（金）16:25 脱稿〕